

オッズパーク杯・東スポ杯争奪戦 **FII**



8/9(土) 10(日) 11(月)

ナイター
開催

川崎スポーツ

レース展望

8月9日からスタートする川崎ナイターはオッズパーク杯・東京スポーツ杯争奪戦として行われるFII開催。A級の1・2班戦とチャレンジレースともに東日本・中部近畿から脚力互角の選手が集まってV争いは接戦になる。

1・2班戦で地元を中心になるのは副島和人(105期)。前期S級では2勝止まりとふるわなかったが、6月最終戦の青森2日目に勝ち星を挙げており、今期はA級でしっかり人気に応えるレースを見せてくれるはず。後輩の先行型池遺聖(123期)の仕掛けに乗って直線差脚を發揮するだろう。南関では石橋慎太郎(静岡88期)もキメ脚なかなか鋭く、好目標を掴めば鋭い追込みを披露する。北日本では20

18年平昌五輪モーグル銅メダリストの原大智(宮城117期)の実力が一歩リード。S級では自力主体に何でもこなせるオールラウンダーとして連対数も多かっただけに、降級初戦の函館では4番手からバック捲りで早速初Vを挙げ、今期の出だしは順調だ。追込型の宇佐見優介(福島115期)とゴール前争いを演じるか。関東勢は今開催なかなか層が厚く、機動パワー上位の金子哲大(埼玉95期)や自在脚ある小樽佑弥(新潟121期)がレースを引っ張り、それに櫻井学(群馬84期)・大矢将大(埼玉81期)・中島将尊(東京105期)が続く形になるだろう。前期S1の鈴木庸之(新潟92期)は長らく腰痛に悩まされたが、今期は最終日の特選で2勝を挙げており徐々

に回復している様子。2班ながら94点台の得点を持つ福田稔希(栃木125期)も忘れてはならない存在で、完全Vも数多く達成しておりその積極性は脅威。中近勢では昇班初戦の7月松戸でいきなり完全Vを達成した2班高野信元(愛知125期)の先行力に期待が集まり、思い切った仕掛けを見れば、ベテランマーカ―木村直隆(兵庫86期)と好連係を決める場面も。

チャレンジは新人一守大葵(兵庫127期)が主力になる。7月本格デビューから8連勝を決めて、特班をかけた松戸決勝では5着に敗れたものの、その先行パワーは素晴らしい、ここからまた連勝街道を突き進むだろう。

実力差無く争いながらでも狙えV接戦

A級
主力選手



原 大智 宮城 117期

前期まで一年間S級で揉まれ、今期は降級後2戦でまずまずのスタートを切った。S級昇級当初は苦戦していたものの、徐々に慣れて連対するようになっていただけに、A級では人気が集まるので立場が違う走りが求められる。別線の警戒を受けつつ人気に応えるか。

A級
主力選手



福田稔希 栃木 125期

先行基本の力強い走り、今年7月までに6Vを挙げている。強靱な脚力に加えて強い気持ちがある選手だ。いつS級で走っても十分通用する力があり、ほとんどのレースを先頭で最終バックを通過する走りを見せているが、後手踏んだ時の捲りもかなり強烈。

A級
主力選手



金子哲大 埼玉 95期

近況は一年ごとにS級・A級の昇降級を繰り返しているが、長らくS級を自力で戦ってきた実績のある機動型。今期初戦の青森では3日間追込みとなったが、鋭いキメ脚から最後はキッチリ差し切りV奪取に成功しており、今開催は関東勢の層が厚くチャンス十分。

A級
注目選手



一守大葵 兵庫 127期

アマ時代から活躍していて、強地脚を武器に7月から本デビュー。8連勝を決めてストレートでの特別昇班を懸けた松戸決勝で同期の水澤秀哉(千葉)に敗れはしたが、力を出し切れれば勝ち切れる脚力はもちろん十分。課題は様々な展開に対応できるダッシュ力なのか。

A級
注目選手



木村優駿 埼玉 127期

父に健司(85期)を持ち、高校時代の輝かしい実績を引っ提げて養成所に入所。ゴールデンキャップを獲得するなど能力評価は高い。本デビュー後まだ優勝こそないものの、レース内容にこだわる姿勢は今後の成長を予感させる。積極的な走りで初優勝を決めるか。

川崎競輪場バンクガイド (2024年1月~12月データ)

昨年1年間28開催・936レース(ガールズケイリンを含む)の川崎バンクの決まり手は右表の通り。昨年までのデータと逃げ・捲り・追込・マークのパーセンテージには大して変わりはないが、1着に限って言えば逃げ・捲りの決まり手は変わらず50%を超えているので、自力型のアタマから組み立てていく車券戦略が可能だろう。川崎名物イエローライン付近のゴール前強襲は、選手たちも新バンクに慣れて徐々に出現率が高くなってきている感であり、力のある追込型はたとえ後方に置かれたとしても、最終4コーナーから一気に巻き返す可能性もあり軽視出来ない印象だ。

